

演習問題集理科6年上第10回

くわしい解説

目 次

| | | | |
|------|----|-------|------|
| 基本問題 | 1 | | p.2 |
| | 2 | | p.3 |
| | 3 | | p.4 |
| | 4 | | p.6 |
| | 5 | | p.7 |
| | 6 | | p.8 |
| 練習問題 | 1 | | p.9 |
| | 2 | | p.10 |
| | 3 | | p.11 |
| | 4 | | p.12 |
| | 5 | | p.13 |
| | 6 | | p.14 |
| | 7 | | p.16 |
| | 8 | | p.18 |
| | 9 | | p.19 |
| | 10 | | p.20 |

すぐる学習会

<https://www.suguru.jp>

基本問題

1 問1 モンシロチョウの卵の大きさは1mmよりも少し小さく、メダカの卵の大きさは1mmよりも少し大きいです。

どちらも約1mmだとおぼえておけば良いでしょう。答えは（イ）です。

問2 モンシロチョウは、アブラナ科の植物の葉に卵を産みつけます。

アブラナ科の植物には、次のようなものがあります。

アブラナ・ナズナ・ダイコン・カブ・キャベツ・コマツナ・ブロッコリー・カリフラワー・ワサビ・ラディッシュ・ハクサイ・チンゲンサイなど。

ジャガイモはナス科の植物ですから、答えは（ウ）です。

問3 こん虫は、「卵→幼虫→（さなぎ）→成虫」と育ちます。

卵から幼虫になることを「ふ化」といいます。

幼虫からさなぎになることを「よう化」といいます。

さなぎから成虫になることを「羽化」といいます。

モンシロチョウの卵が「ふ化」して幼虫になると、まず自分の卵のからを食べます。

答えは「ふ化」、「（自分の）卵のから」です。

問4 モンシロチョウの幼虫は「アオムシ」です。

カの幼虫は「ボウフラ」です。（カのさなぎは「オニボウフラ」です。）

トンボの幼虫は「ヤゴ」です。

ハエの幼虫は「ウジ」です。

ウスバカゲロウの幼虫は「アリジゴク」です。

自分の左手（または右手）をパッと広げてみてください。

指が5本あり、指と指の間は4つあります。（算数の植木算ですね。）

同じようにモンシロチョウの幼虫も、1令幼虫から5令幼虫まであり、幼虫の間に4回脱皮します。

そして、5回目の脱皮のときに「さなぎ」になります。

答えは①アオムシ、②1、③4、④5、⑤5です。

問5 モンシロチョウの成虫の口は、ストローのようになっており、花のみつを吸います。

答えは（エ）です。

〔2〕問1 こん虫のからだは、「頭・胸・腹」の3つの部分に分かれています。

頭には、口・単眼・複眼・しょっ角があります。

胸には、6本の足と、普通4枚の羽があります。

また、呼吸は「気管」で行いますが、気体の出入り口は「気門」といいます。

こん虫の「気管」、「気門」にあたるのは、人間でいえばそれぞれ「肺」、「鼻や口」です。

「気管」と「気門」の区別をしっかりつけておきましょう。

答えは①腹、②しょっ角、③胸、④6、⑤気門、⑥気管です。

問2 「卵→幼虫→さなぎ→成虫」のように、さなぎの時期があるような育ち方を、「完全変態」といいます。

「卵→幼虫→成虫」のように、さなぎの時期がない育ち方を「不完全変態」といいます。

答えは「完全変態」です。

問3 不完全変態のこん虫をおぼえておきましょう。「カットバセゴキブリ」のような覚え方があります。

不完全変態 … カマキリ、トンボ、バッタ、セミ、ゴキブリ

他に、コオロギも不完全変態です。

オオカマキリ、アブラゼミ、シオカラトンボは不完全変態で、クロオオアリだけが完全変態ですから、答えは（ア）です。

問4 こん虫の羽の枚数は普通4枚ですが、2枚のこん虫もいます。

羽が2枚のこん虫 … ハエ・アブ・カ

答えは（エ）です。

問5 外側がかたいからでおおわれているようなつくりを「外骨格」といいます。

問6 こん虫類、^{せうぞく}クモ類、甲かく類、多足類のように、からだと足に節があるような動物を、「節足動物」といいます。

〔3〕問1 背骨のことを「セキツイ」ともいいます。

背骨がある動物を、「セキツイ動物」といいます。

問2 Aのペンギンは飛べないですが、鳥類です。

Bのイルカは海にいますが、魚類ではなくホニュウ類です。

Cのカメはハチュウ類です。

Dのマグロは魚類です。

Eのサンショウウオは両生類です。両生類には、他にカエル・イモリなどがいます。

答えは、①D、③Cです。

問3 (ア)の「卵にかたいからがある」のは、陸上で産卵するので、乾燥から守るためにからが固くなっています。ハチュウ類・鳥類の特ちょうです。

(イ)の「水中で産卵する」のは、魚類と両生類ですから、合っています。

クジラやイルカなどのホニュウ類は、「産卵」ではなく、親と似たからだで産まれます。

(ウ)の「親が子育てをする」のは、鳥類とホニュウ類の特ちょうです。

(エ)の「一生水中で生活する」は、魚類だけの特ちょうで、両生類は子は水中で、親はおもに陸上で生活します。

答えは(イ)です。

問4 「親と似た姿で産まれる」のは、ホニュウ類の特ちょうですから、④と⑤の間に分ける線を入れることになり、答えは(エ)です。

注意 ホニュウ類のうち、「カモノハシ」は卵で産れます。

問5 両生類は、子はえらで、親は肺で呼吸しますから、答えは(イ)です。

問6 体温がほぼ一定である動物を、「恒温動物」といいます。

恒温動物なのは、「鳥類」と「ホニュウ類」ですから、③と④の間に線を入れることになり、答えは(ウ)です。

参考 「鳥類」と「ホニュウ類」に共通する特ちょうとして、次の3個を覚えておきましょう。

- ・恒温動物である
- ・親が子の世話をする
- ・心臓が2心房2心室である

問7 体温が気温や水温によって変わる動物を、「**変温動物**」といいます。

問8(1) (グラフ) を見ると、寿命が20のときはA型の場合はほぼ死亡していますが、C型の場合はかなり死亡しています。答えは**C**です。

(2) A型は、産まれてからまもなくはほとんど死亡しません。親がしっかり子育てをしているということです。

A型はほとんど死亡しないのですから、たくさん産卵する必要がなく、答えは**(ウ)**です。

4 問1 メダカのおすとめすの見分け方は、次のとおりです。

おす … せびれに切れ込みがあり、しりびれが平行四辺形
めす … せびれに切れ込みがなく、しりびれが三角形

他に、めすははらがふくらんでいるという特ちょうもあります。

答えは (イ) です。

問2 メダカのひれは5種類で7枚です。

むなびれとはらびれが2枚ずつあり、せびれ・しりびれ・おびれが1枚です。

答えは「むなびれ・はらびれ」です。

問3 (ア) 直射日光が当たると、水温が上がりすぎる危険があります。

(イ) 水が空気にふれる水面が大きい方が、水中に空気がとけこんで、メダカが呼吸しやすくなります。

(ウ) えさを与えすぎると水がにごってしまう危険があります。

(エ) くみたての水では、メダカの環境が変わりすぎるので良くありません。

また、水道水にはカルキ（塩素）が入っているので、メダカには毒です。

よって、答えは (エ) です。

問4(1) 産まれたばかりのときは、油のつぶが散らばっていて、だんだん集まっていきます。答えは (ア), (エ), (イ), (ウ) です。

(2) 卵からかえってすぐのメダカは、(図) のXの部分に養分をたくわえているので、しばらくはえさを食べなくても平気です。

Xの部分を「卵黄」といいます。「黄身」でもOKです。

(3) 親メダカは、自分が産んだ卵を、えさとして食べてしまいます。

「親メダカに食べられないようにするため」などと答えます。

5 問1 「食べる・食べられる」の関係を、「**食物連鎖**」といいます。

- 問2 (ア) ミカヅキモです。植物プランクトンです。
(イ) ミドリムシです。植物と動物の両方の性質を持ちます。
(ウ) ミジンコです。動物プランクトンです。
(エ) イカダモです。植物プランクトンです。
(オ) ラッパムシです。動物プランクトンです。

答えは (ア) が (ア), (ウ) が (ウ) です。

問3(1) (図1) のAは、食物連鎖のはじめの生物で、光合成をする植物が入ります。答えは (ア) です。

(2) (図1) のAは、光合成をする植物が入り、光合成によって養分を作るのですから、答えは「生産者」の (イ) です。

問4 Aには植物が入るので、ミカヅキモです。
Bにはミカヅキモを食べるミジンコが入ります。
Cにはミジンコを食べるメダカが入ります。
Dにはメダカを食べるナマズが入ります。

答えは、Bが (イ), Dが (エ) です。

問5 食物連鎖のはじめのAは数が多く、B, C, Dになるにつれてだんだん数が少なくなっていますから、答えは (エ) です。

問6 DはCを食べます。

Cが減少すると、Dにとってはえさが減るわけですから、Dの個体数は一時的に減ってしまいます。答えは (ア) です。

- 〔6〕問1 (1) Aはカブトムシの幼虫です。
Bはナナホシテントウです。
Cはミツバチです。
Dはギンヤンマというトンボの幼虫です。
Eはカマキリの卵が入っているふくろです。

答えは、A 「カブトムシ」、D 「カマキリ」です。

- (2) モンシロチョウの幼虫は「アオムシ」です。
カの幼虫は「ボウフラ」です。(カのさなぎは「オニボウフラ」です。)
トンボの幼虫は「ヤゴ」です。
ハエの幼虫は「ウジ」です。
ウスバカゲロウの幼虫は「アリジゴク」です。

答えは「ヤゴ」です。

- (3) Aのカブトムシの幼虫は、土の中で見られます。
Bのナナホシテントウは、石や落ち葉の下で見られます。
Cのミツバチは、巣の中で見られます。
Dのギンヤンマの幼虫は、水の中で見られます。
Eのカマキリの卵は、木の枝や幹で見られます。

答えはA (ア)、B (オ)、C (エ)、D (イ)、E (ウ)です。

- 問2 (ア)のフナは一生を川で過ごします。
(イ)のイワシは一生を産みで過ごします。
(ウ)のアユは子どものころは海で過ごしますが、春になると川を上ってきます。
(エ)のサケは秋になると海から川にもどり、産卵します。

答えは (エ)です。

- 問3 春に日本に渡ってきて、秋に南の国に渡っていくのですから、日本で夏を過ごすことになります。このような鳥を「夏鳥」といいます。

夏鳥には、「ツバメ・カッコウ・ホトトギス」などがいます。

逆に、日本で冬を過ごす鳥は「冬鳥」とい、、「ハクチョウ・ガン・カモ」などがあります。

答えは「夏鳥」、(ウ)です。

- 問4 (ア)はヒキガエル、(イ)はトノサマガエル、(ウ)はサンショウウオ、(エ)はモリアオガエルの卵です。答えは (ア)です。

練習問題

1 問 1(1) こん虫のからだは、「**頭・胸・腹**」の3つの部分に分かれています。

(2) こん虫の呼吸器官は「**気管**」です。「**気門**」は空気の出入り口です。

気管と気門をまちがいやすいので注意しましょう。答えは **(エ)** です。

(3) 「卵→幼虫→さなぎ→成虫」のように、さなぎの時期がある育ち方を、「**完全変態**」といいます。

(4) 不完全変態のこん虫をおぼえておきましょう。「カットバセゴキブリ」のような覚え方があります。

不完全変態 … カマキリ, トンボ, バッタ, セミ, ゴキブリ

他に、コオロギも不完全変態です。

(ア)～(ク)の中で、不完全変態なのは「(ア) オオカマキリ, (エ) アブラゼミ, (カ) ギンヤンマ, (キ) トノサマバッタ」ですから、完全変態なのは、(イ), (ウ), (オ), (ク) です。

注意 ギンヤンマはトンボです。

(5) こん虫の羽の枚数は普通4枚ですが、2枚のこん虫もいます。

羽が2枚のこん虫 … ハエ・アブ・カ

答えはイエバエの **(ウ)** です。

〔2〕問1 メダカのおすとめすの見分け方は、次のとおりです。

おす … せびれに切れ込みがあり、しりびれが平行四辺形
めす … せびれに切れ込みがなく、しりびれが三角形

他に、めすははらがふくらんでいるという特ちょうもあります。

答えは「めす」です。

問2 メダカは、春から夏にかけて、早朝に産卵します。

答えは（ア）です。

問3 親メダカは、自分が産んだ卵をえさとして食べてしましますから、食べられないように、卵を親とは別の水そうに移します。

答えは（エ）です。

問4 メダカのからだになる部分を「はいばん」といい、あの部分です。

（い）は「卵黄」で、（う）は「油のつぶ」です。

問5(1) 卵からかえってすぐのメダカは、（図）のXの部分に養分をたくわえているので、しばらくはえさを食べなくても平気です。

Xの部分を「卵黄」といいます。「黄身」でもOKです。

(2) しばらくはえさを食べなくても平気なのですから、答えは（イ）です。

(3) 「水温×ふ化日数=250」で、水温は23℃ですから、ふ化日数は、 $250 \div 23 = 10.8\cdots$ （日）となり、答えは（ウ）です。

〔3〕問1 ①には、「たまごで産まれない」、つまり、親と似たからだで産まれる「ホニュウ類」があてはまりますから、答えはイヌの（エ）です。

②には、「親が子の世話をする」があてはまりますが、親が子の世話をするのは、鳥類とホニュウ類です。

ホニュウ類は①にあてはまるので、②には鳥類があてはまり、答えはペンギンの（ア）です。

問2 問1の説明でわかった通り、①にはホニュウ類があてはまるので、答えは（オ）です。

問3(1) 卵と精子が1つになることを「受精」といいますから、答えは「精子」です。

(2) 水中に産卵する動物は、多くは「体外受精」ですから、答えは（イ）です。

(3) ①は「ホニュウ類」で、②は「鳥類」でした。

ホニュウ類も鳥類も体内受精をし、体外受精はしませんから、答えは（ア）です。

問4 親が子の世話をするのは、「ホニュウ類」と「鳥類」です。

「鳥類」と「ホニュウ類」に共通する特ちょうとして、次の3個を覚えておきましょう。

・恒温動物である 　・親が子の世話をする 　・心臓が2心房2心室である

Bの文の「親が子の世話をしない」と入れかえてもOKなのは、「恒温動物ではない」、つまり「变温動物である」なので、答えは（ウ）です。

4 問1 (図1) のAは、食物連鎖のはじめの生物で、光合成をする植物が入ります。

答えはAです。

問2 食べる・食べられるという関係を「**食物連鎖**」といいます。

問3 (図) のBやCに注目しましょう。

Aは植物で、BやCはそれを食べる動物です。

動物は光合成をせず、呼吸のみします。

呼吸では、酸素を吸収して二酸化炭素を出します。

たとえばBは、(ア)を吸収して(イ)を出しているのですから、(ア)は酸素で、(イ)は二酸化炭素です。

よって答えは④です。

問4 Aは植物ですから、光合成をします。

よって(ウ)は光のエネルギーになり、答えは「**光、光合成**」となります。

問5 「分解者」とはその名の通り、生物の死がいやふんなどを分解する生物です。

カビやキノコ、細菌類、ミミズ・ダンゴムシなどがあてはまります。

答えは②、③です。

問6 Aは植物で、BはAを食べます。そのBの数が減少すると、AはBにあまり食べられなくなり、Aの数は増加します。

CはBを食べます。そのBの数が減少すると、Cにとっては「えさ」が減少することになりますから、Cも減少します。

Aは増加し、Cは減少するのですから、答えは④です。

〔5〕 問1 aは歯がするどくとがっているので、肉をさきとるのに都合が良くなっています。肉食動物の歯です。

bは歯がうすのようになっていて、草をすりつぶすのに都合が良くなっています。草食動物の歯です。

よって答えは、①肉、②草です。

問2 cは「ひづめ」があるのでウマ、dはネコ、eは泳ぐのに都合が良いつくりになっています。

答えは、c(イ)、d(ウ)、e(ア)です。

問3 ヒトの骨の⑨にあたる部分は、eでは泳ぐのに便利なように、ひれ状になっています。

- 〔6〕問1(1) 立方体には面が6面ありますから、表面積は「1辺×1辺×6」で計算できます。体積は、「1辺×1辺×1辺」で計算できます。

1辺が1mの立方体は、表面積は $1 \times 1 \times 6 = 6$ (m²) です。
体積は $1 \times 1 \times 1 = 1$ (m³) です。

1辺が2mの立方体は、表面積は $2 \times 2 \times 6 = 24$ (m²) です。
体積は $2 \times 2 \times 2 = 8$ (m³) です。

1辺が3mの立方体は、表面積は $3 \times 3 \times 6 = 54$ (m²) です。
体積は $3 \times 3 \times 3 = 27$ (m³) です。

- (2) 「同じ体積あたりの表面積」をくらべるのですから、すべて「1m³あたり」でくらべることにします。

1辺が1mの立方体は、表面積が6m²で体積は1m³です。1m³あたり、6m²です。

1辺が2mの立方体は、表面積が24m²で体積は8m³です。1m³あたり、 $24 \div 8 = 3$ m²です。

1辺が3mの立方体は、表面積が54m²で体積は27m³です。1m³あたり、 $54 \div 27 = 2$ m²です。

よって、1m³あたりの表面積が、それぞれ6m²、3m²、2m²であることがわかりました。

最も大きいものは6m²で、最も小さいものは2m²ですから、最も大きいものは最も小さいものの、 $6 \div 2 = 3$ （倍）であることがわかりました。

- (3) 1辺が1m、2m、3mの立方体は、1m³あたりの表面積が、それぞれ6m²、3m²、2m²であることがわかっています。

(2)の問題文によると、「同じ体積あたりの表面積が小さい物の方がさめにくく」のですから、1辺が3mの立方体の方が、さめにくくといふことになります。

つまり、体長が大きい方がさめにくくということになり、寒い地域の動物の方が、体長が大きいことになります。（体温がすぐさめてしまったら、生死にかかわりますね。）

ところで、北極は北緯90度、南極は南緯90度、赤道は緯度0度です。

つまり、高緯度ということは寒い地域であることをあらわし、低緯度ということは暖かい地域であることをあらわしています。

体長が大きい順に並べるのですから、寒い地域の動物（高緯度に住んでいる動物）から並べることになり、④ホッキョクグマ、②ヒグマ、①ツキノワグマ、③マレーグマの順に並べるわけですから、答えは「④、②、①、③」です。

問2(1) 耳が大きい方が、空気中に放熱しやすいですから、答えは②です。

(2) 耳が小さい方が、体温がさめにくいのですから、答えは③です。

問3 ベルクマンの法則は、「寒い地域の動物は、体長を大きくして、体温がさめにくくしている」という法則です。

もともと体温がなければ、ベルクマンの法則は成り立ちません。

つまり、変温動物の場合は、ベルクマンの法則は成り立たないことになります。

鳥類とホニュウ類が恒温動物で、他の動物は変温動物です。

(ア) コウモリはホニュウ類、(イ) カエルは両生類、(ウ) チョウはこん虫類、(エ) ペンギンは鳥類、(オ) イヌはホニュウ類ですから、答えは（イ）、（ウ）です。

7 問1 「産まれたあと早いうち」というのは、(グラフ)の「最高寿命に対する年」では、0から④までを示します。

0から④まででは、Aの生存率はほぼ100%のまま、Bは20%だけが生存し、Cはたった0.2パーセントだけが生存するのですから、早いうちに死んでしまうのは、Cです。

- 問2 (ア)の場合は、親のおなかの中で守られますから、あまり死にません。
(イ)の場合は、親がたまごを保護しないので、すぐ死んでしまいます。
(ウ)の場合は、親がたまごを守るので、あまり死にません。
(エ)の場合は、早いうちに死ぬかどうかとの直接の関係はありません。

以上から、答えは(イ)です。

- 問3(1) (グラフ)の「最高寿命に対する年」が0から④までの場合、Bは20%だけが生存します。

100の子またはたまごを産んだうちの20%ですから、生存するのは20匹です。

- (2) (1)では、第2世代で生存しているのは20匹でした。

そのうち半分がめすなのですから、第2世代で生存しているめすは10匹です。

この、第2世代の10匹のめすが、それぞれ第3世代の子(またはたまご)を100匹ずつ産んだとして、生存するのは(1)と同じように20匹ずつです。

よって、第3世代として生き残る子(またはたまご)は、 $10 \times 20 = 200$ (匹)になります。

- (3) (2)の場合では、第2世代は20匹、第3世代は200匹ですから、動物の数はどんどん増えていきます。

(3)では、動物の数が一定になるように子またはたまごを産まなければなりません。

よって、もし第2世代が「2匹」なら、第3世代も「2匹」にならなければいけません。

第2世代が「2匹」なら、その半分がめすなので、第2世代のめすは1匹です。

この1匹の第2世代のめすが、第3世代として生き残る子またはたまごが2匹になるように、第3世代を産む必要があります。

0から④までの生存率は20%ですから、 $2 \div 0.2 = 10$ （匹）の子またはたまごを産めば、第3世代として生き残る子またはたまごはちょうど2匹になります。

よって、答えは10です。

問4 たとえばヒトの場合でも、100歳になってから子を産むのはありえません。

子を産む適齢期というのがあるということです。

（グラフ）の④のときが、子またはたまごを産む適齢期だとします。

Aのグラフでは生存率が高いですから、あまり子またはたまごを産まなくとも大丈夫です。

Cのグラフでは生存率が低いので、たくさん子またはたまごを産まなければなりません。

よって答えはCです。

問5 （グラフ）のAは生存率が高いですからホニュウ類です。

Cはたくさん子またはたまごを産むものを選べば良いですから魚類です。

答えはAが（ウ）、Cが（ア）です。

〔8〕問1 クモ類のからだは、「頭胸部」と「腹部」の2つに分かれています。

こん虫類のしょっかくは2本です。

よって、答えは①2, ②2です。

問2 ミジンコは、エビやカニなどと同じ仲間で甲かく類ですから、答えはBです。

問3(1) 「卵→幼虫→さなぎ→成虫」のように、さなぎの時期があるような育ち方を、「完全変態」といいます。

「卵→幼虫→成虫」のように、さなぎの時期がない育ち方を「不完全変態」といいます。

答えは「完全変態」です。

(2) 不完全変態のこん虫をおぼえておきましょう。「カットバセゴキブリ」のような覚え方があります。

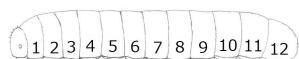
不完全変態 … カマキリ, トンボ, バッタ, セミ, ゴキブリ

他に, コオロギも不完全変態です。

(ア)～(オ)のうち不完全変態なのは、(イ)シオカラトンボ, (ウ)オオカマキリ, (エ)アブラゼミです。

よって完全変態なのは、(ア), (オ)です。

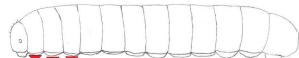
(3) 右の図のアオムシの、左はしの部分が「頭」です。



頭以外には12個の「節」があります。

つめのような足は6本ありますが、真横から見ているのですから3本だけ見えます。

右の図のように、頭に近い3つの節に、つめのような足があります。



〔9〕 問1 メダカは環境が変わることをきらって、同じ環境にいようとします。

かきませた向きと反対の向きに泳いだら、同じ場所にそのままいることができます。

水を時計回りにかきませたので、メダカは反時計回りに泳ぎ、答えは (イ) です。

問2(1) メダカは環境が変わることをきらって、同じ環境にいようとします。

たてじまもようを時計回りに回すと、メダカはもようと同じように時計回りに泳ぎますから、答えは (ア) です。

注意 問1のように水をかきませた場合と、この問題のようにもようを回した場合では、答えが逆になります。

注意しましょう。

(2) 同じ環境にいようとするとするのですから、答えは (ア) です。

問3 同じ環境にいようとするとするのですから、問1のように水の流れにさからうように動き、行動するはんいはせまいので、答えは (イ) です。

10 問1 シジュウカラはおおすが70羽とめすが50羽いるので、全部で $70 + 50 = 120$ (羽) のシジュウカラがいます。

島の面積は60km²なので、60km²あたり120羽のシジュウカラがいます。

1km²あたり、 $120 \div 60 = 2$ (羽) のシジュウカラがいることになります。

問2 問題に「資源をうばいあう」と書いてあったので、「うばいあうことができる」ようなものが「資源」です。

ところが「温度」はすべてのシジュウカラに共通したものですから、うばいあうわけではありません。

答えは (ウ) の温度です。

問3 たとえば「一腹卵数」が4個の場合、生存率は51%です。これは、シジュウカラのめすが1回あたり4個の卵を産んで、そのうちの51%が生存するという意味です。

4個の51%は、 $4 \times 0.51 = 2.04$ です。

よって、「一腹卵数」が4個のシジュウカラは、2.04匹のひなを育てることがあります。

同じように計算すれば、

「一腹卵数」が1個の場合 $\cdots 1 \times 0.99 = 0.99$ (匹) のひなを育てる。

「一腹卵数」が2個の場合 $\cdots 2 \times 0.82 = 1.64$ (匹) のひなを育てる。

「一腹卵数」が3個の場合 $\cdots 3 \times 0.62 = 1.86$ (匹) のひなを育てる。

「一腹卵数」が4個の場合 $\cdots 4 \times 0.51 = 2.04$ (匹) のひなを育てる。

「一腹卵数」が5個の場合 $\cdots 5 \times 0.43 = 2.15$ (匹) のひなを育てる。

「一腹卵数」が6個の場合 $\cdots 6 \times 0.34 = 2.04$ (匹) のひなを育てる。

「一腹卵数」が7個の場合 $\cdots 7 \times 0.27 = 1.89$ (匹) のひなを育てる。

「一腹卵数」が8個の場合 $\cdots 8 \times 0.22 = 1.76$ (匹) のひなを育てる。

「一腹卵数」が9個の場合 $\cdots 9 \times 0.14 = 1.26$ (匹) のひなを育てる。

「一腹卵数」が10個の場合 $\cdots 10 \times 0.10 = 1$ (匹) のひなを育てる。

よって、最も多くのひなを育てるこことできる一腹卵数は 5 個です。